

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成26年2月17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400107
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム ひいらぎ
所在地	鹿児島県垂水市柘原625番地2 (電話) 0994-35-3686
自己評価作成日	平成25年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念

「思い・願いを大切に笑顔で明るく楽しい生きがい作り」を、常に考えながら、入居者様が生活して来たこれまでの思いを大切にして、今までと変わる事のない生活が出来る様に援助しています。
隣接している、小規模多機能ホームと連携して各種行事などを行って交流をしている。
住宅地に有る為、ご近所とのふれあいが有り、日々の挨拶や季節行事に参加の呼びかけをして交流を深めている。ご近所の住民からは、自家で採れた作物の差し入れが有り、頂いた物が食卓を飾って入居者様の喜ばれる顔を見る事が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<立地・環境>

・事業所は国道を少し入った住宅地の中にあり、同法人の経営する小規模多機能ホームに隣接して建てられている。母体は、長年地域医療に携わってきた病院であるため、地域住民からの支持は厚く、理事長自らが頻回に事業所を訪問し、利用者とふれあい交流している。

<地域交流>

・日常的に散歩や買い物に出かけた際に地域住民と挨拶を交わしたり、会話を楽しんでいる。また、地域の文化祭に出かけたり、事業所主催の夏祭りやクリスマス会等の行事に地域住民を招待するなど、積極的に働きかけ交流している。
・日頃の交流により、地域住民には事業所の特性を理解してもらっており、野菜のお裾分けや事業所見学、普段の見守りや緊急時の協力体制等支援して頂いている。

<利用者の思いへの配慮>

・管理者や職員は、利用者の楽しみ事は何かを常日頃考えており、利用者個人の思いや意向を暮らしの中で見せるしぐさや表情、態度などから汲み取るとともに、穏やかな毎日が過ごせるよう、一人ひとりのペースに合わせたケアを心掛け接している。
・食事や入浴、外出支援等、本人の希望することが叶えられるよう、時に職員を多く配置するなど、柔軟に対応することができる事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念が見える所に掲げ、笑顔での対応を行い、その方の気持ちに添った援助をしている。	日々のケアの中で、理念にある「楽しい生きがい作り」が実践できるよう事務室や玄関、台所等に掲示し、常に確認できるようにしている。毎月のケア会議で理念を振り返るようにしており、理念が現状に則したものとなっているか職員間で話し合うとともに家族からの意見も大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	住宅地に有る為、ご近所とのふれあいは多く、日頃のあいさつや各種行事への参加声掛けを行っている。入居者様が買い物を希望された時は、近くの商店へ付き添って買い物に行っている。	日常的に散歩に出かけたり、近くの商店まで買い物に出かけており、外出先で地域の人々と会話を楽しんでいる。近所の方から畑でできた野菜の差し入れを頂いたり、近くに来たからと様子を見て行かれる方もいる。事業所主催の夏祭りやクリスマス会等の行事に地域の方々や近くの保育園児らにも参加してもらい楽しく交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	各種行事の中で、参加された地域の方へ具体的な認知症への対応については、説明しないが、入居者様への職員の対応を見て頂いたり、地域の文化祭で認知症をテーマにした寸劇をして理解を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所・民生委員・ご家族が出席され意見交換している。推進会議で、上がった話題を、職員へ伝えて、今後のサービス向上に努めている。	会議は職員のほか家族や地域住民、行政職員らで構成され、2ヵ月に1回開催している。多くの方から意見を頂きたいと考えているため、クリスマス会等の行事に合わせて家族会と運営推進会議を同日に開催している。災害時の避難方法等メンバーから出された意見を基に積極的に話し合いがなされ事業所の取り組みに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者とは、推進会議等で、話をしてはいるが、対面する機会が少ないので、今後機会を増やして行きたい。	行政職員とは運営推進会議や認定申請時、また定期的開催される市主催の『ケアマネ研修会』等の機会に、事業所の取り組みや実情を説明し、意見や助言を頂くなど連携を図っている。市の『実態調査アンケート』に行政職員が来所されたこともあり、利用者の日々の暮らしぶりなどをご理解頂いていると考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人研修やケア会議などで、身体拘束を行わない事は理解できている。開設以来、直接的拘束は行っていないが、言葉による拘束が見られるので、改善して行きたい。	『身体拘束排除マニュアル』を基に内部・外部の研修に参加し、身体拘束をしないケアの徹底を図っている。言葉による拘束については、「待って下さい」等も拘束であることや方言の程度の問題を繰り返し話し合い確認している。玄関を常時解錠しているため、職員間での見守りを徹底し、夜間も事業所内を広く見渡せる場所で記録をとるなどしている。地域住民には日頃から事業所の理解を求めており、協力して頂ける関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修等により学ぶ機会を持っていて、虐待防止に努めている。言葉による虐待等、気付かないで、行っている事が無いように職員が互いに気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人研修で毎年学んでいるが、成年後見制度は、後見制度はこれまで活用できる場が無かった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時説明を行い、疑問点はいつでも遠慮なく聞いて下さいと伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や日頃の面会時に、話をして御家族・入居者様の意見・要望を聞き、運営に反映する様になっている。	利用者の日頃の暮らしの中での表情や言葉を汲み取るとともに、家族の来所時や電話、お便りでのやり取り等より意見を聞き取るよう努めている。相談苦情については、ヒヤリハットを『ミニリスク』、苦情を『リスク』として扱い、毎月のケア会議で確認し合い、運営推進会議でも報告し意見を頂くなど、業務改善に向けた話し合いを繰り返し行なっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケア会議や日常での会話の時に意見具申が有るので、運営に反映している。	管理者は職員の日頃の言動から、気になる職員や新人等にその都度声をかけ、思いや意見を聞き取るよう努めている。年2回の人事考課のアンケートからも、職員一人ひとりの意見を把握でき、これらを積極的に取り入れる方向で対応している。勤務体制についても、職員個々の希望を聴取して、働きやすい環境づくりに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	厳しい現状の中で、整備をされていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会などの情報を元に、職員を選び、最適な研修に参加出来るようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各種行事に招待して参加交流したり研修会等で話をして得た情報をケア会議や日頃の会話の中で伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の様子をみながら、見守り声掛けを行い、希望が有れば出来る範囲で、実現して行く様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人と同様に希望・不安を取り除けるように傾聴して安心した生活が出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員からの情報を精査して必要なサービスを提供している。必要な時は、他のサービス利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお茶を飲んだり、食事の準備を手伝ってもらったりして、自分の家に居ると思っ頂ける様に接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、入居者様の情報を伝え、御家族の要望を出来る限り実現出来る様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の入居者様に対応して外出や交流などを行っている。	契約時に利用者や家族から得られた情報をアセスメントシートに落とし込み、入居後に把握できた内容も申し送りノートや支援経過に加えている。入居後も知人らとの関係が途切れないよう、電話や手紙、年賀状のお手伝いをしたり、馴染みの商店や床屋、墓参りなど、個々の希望に沿えるように職員数を増やすなど、可能な限り外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握して、トラブルに留意しながら孤立しない様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	挨拶や各種行事のお知らせなどを通じて関係を保って相談や支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方を第一に、希望・意向を反映出来る様、職員間で検討している。	思いをうまく伝えられない利用者からは、日頃の言動から汲み取るように努めており、ご家族からも面会時等に情報を得るようにしている。把握できた内容は『介護記録』に詳細に記載され、申し送り時やケア会議の場で共有して利用者本位の生活が送れるよう毎日の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のサマリーやモニタリングを参考にして、職員間で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事は、極力自己にて行ってもらえる様、職員で話し合いケアを統一できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議や意見具申・ご家族の意向を参考にして介護計画を作成している。	本人や家族、主治医から聞き取った情報を関係者間で協議してケアプランに反映させている。日々のケアへの実践状況を、担当者が記入する『実績記録』を基に10日毎および毎月のモニタリング時に確認し合っている。本人や家族の意向や身体状況に変化が見られた時には、臨機応変にプランを見直し、現状に即した介護計画となるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌・各種記録などで情報を共有して介護計画の見直しや実践に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で情報を共有し必要なニーズに対応して可能な限り実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が出来る様に行事を計画し楽しめる生活が出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に掛かっていただいていたお医者様と連携を図り、緊急時における関連病院との連携も取れる様にしている。	アセスメントシートに入居前のかかりつけ医を記載し、入居後も希望に沿って受診できるよう家族と職員が協力し合って支援している。また、週1回往診を受ける方もおられ、受診内容や処方された内服薬情報等を『申し送りノート』と『介護記録』に記載して、職員は申し送り時やケア会議等で情報共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化を、看護職員に伝え、必要な対処を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族や入院先の職員と連携して情報交換を行い退院後の生活に支障の無い様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでは、重度化・終末期への対応を検討していなかった。研修等により必要性を感じていたため、情報として職員へ伝えていたが、今後は、具体的な検討をして行く必要が有と感じている。	重度化や看取りに関する研修を行なうとともに職員の気持ちや力量の把握に努めるなど終末期に対応できるよう準備を整えているところである。事業所として『ターミナル指針』を作成しているものの利用者・家族に対して説明するタイミングがつかめず、説明と同意がなされていない。管理者としては、来年度中には説明と同意が得られるよう整備したいと考えている。	『ターミナル指針』を作成しているが、まだ利用者・家族に詳細な説明と同意を得られていない状況のため、どの時点で説明し同意を得ることが適切なのかを検討して頂き、早い段階から利用者・家族と方針の共有をし、重度化・終末期に対して共通認識のもと関係者と協力体制を図り取り組んでいかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回救命訓練を実施して、救命力の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回避難訓練を行い、近隣の方にも参加してもらえるよう広報している。</p>	<p>夜間を想定した火災訓練を年2回実施し、民生委員や消防団長等地域住民にも参加して頂いている。また、緊急連絡網に地域住民も記載し、消防団長宅を待機場所として登録の許可を得ている。飲料水や米、食料等の備蓄をはじめ懐中電灯や携帯ラジオ等の備品についてもきちんと準備されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩なので、敬意を持って笑顔で接しプライドを傷つけない様に人格の尊重を図っている。	人生の先輩として尊敬し、話し方や声のかけ方、言葉の内容や態度等に十分配慮し日々接している。特に排泄時には他の利用者に気付かれないようさり気なく声をかけ、トイレに誘うよう気配りしている。また、情報保護の観点より、部外者にもれないようカルテ等の個人記録は扉付きの戸棚に適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望や思いを実現出来る様にご家族からの情報を参考に自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを基本にしてその方のペースで生活出来る様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	気候と極端にずれていなければ、御本人の意思を大事にしながらかアドバイスして服装を決定している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人の嗜好に添いおいしく食べられる様にし職員も一緒に食事をして、手伝いのできる方には声掛けをしている。	献立は隣接する小規模多機能ホームのものを参考にしながら、利用者のリクエストにも応えるようにしている。調理の下ごしらえ等できる方に参加してもらい、利用者と職員が一緒になって食事の準備を行ない、会話をしながら一緒に食事している。また、行事食や外食等の工夫にも積極的に取り組み、楽しい時間を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態により提供法を替えたり、水分を摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けを行い、出来る範囲で行ってもらい出来ない所は職員が手伝っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	御本人の状態をみながら、自己にて出来る様、職員間で情報を共有している。	パットやリハビリパンツを使わないで済むよう本人と家族、職員間で話し合い、対応に努めたことで実現できた事例も生じている。排泄チェック表の活用により排泄パターンが把握でき、トイレで排泄できるようにしているため、現在はポータブルトイレの使用者はいない状況である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて、状態を把握して、薬剤の使用など検討し快適な生活が出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、楽しみの一つでも有るので、楽しく、ゆっくりとは入れる様に、安全に留意しながら声掛けを行っている。	入浴日や時間帯は特に定めておらず、利用者の希望に沿っていつでも入浴できるよう対応している。入浴拒否の方には、声かけやそのタイミング、または職員を変えるなどして誘うよう努めている。へりの高さから浴槽に浸かっての入浴が困難な方のために管理者は対応を思案している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに応じてリラックスして休息出来る様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を把握し、服薬後の変化等に留意して危険を回避出来る様に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来る事に合わせて、手伝をもらったり、それぞれの首肯品を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	隣接の小規模多機能施設と協同して外食や外出などを行って買い物をしたりしている。	初詣やさくら、あじさい等のお花見やバラ園見学、地区の文化祭等年間行事に組み込み出かけている。極力全員で出かけられるよう法人のリフト車も活用している。また、買い物や外食など、個人的な要望にも可能な限り応えたいという思いから、例えば、当日は職員を多めに配置して積極的に出かける機会を設けるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様の状態により自己管理が出来る方は自分で持ってもらい、出来ない方は、御家族と協議して買い物の希望などを聞き一緒に出掛けたり、購入したりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をしたい時に自由に電話されている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>気候・季節を考えながら、快適に生活が出来る様、飾り物などを工夫している。</p>	<p>フロアの天井は高く、対面式のキッチンからは、調理の音やにおいを感じることができる。フロアに面した畳スペースでは、利用者が談話したり、体を休めたりと自由に使用でき、また、事業所全体を見渡せる位置にあるため、職員が記録にも利用している。フロアや廊下には、利用者職員による手作りの作品が飾られ、季節感を楽しむことができる。室温や空調にも気を配り、過ごしやすい環境を提供している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>協用空間でも、パーソナルスペースの確保が出来る様に配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い易いように、配置し変更が有れば、職員が手伝っている。</p>	<p>居室はエアコン、ベッド、タンス等が備え付けられており、布団は安眠等に配慮して、それまで自宅で使っていたものを持ち込むなどしている。室内の飾りつけは、利用者と家族、職員が行っており、状況に応じて模様替え等も行ない、利用者が居心地よく過ごせる居室づくりに配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>その方の状態に応じて、安全に過ごせるように職員間で連携して改善している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない